

# 家庭医療べんきょう会

	代表者	巴 悠記 (医学B 4年)	
構成員	山本 優里 (医学B 6年)	小林 英美 (医学B 5年)	原賀 健一 (医学B 5年)
	藤井 由佳 (医学B 4年)	伊藤 渉 (医学B 3年)	
	松尾 美結 (医学B 3年)	大崎 崇正 (医学B 3年)	
	田中 理穂 (医学B 2年)	前田 七海 (医学B 2年)	
	山路 創一郎 (医学B 2年)	伊藤 沙妃 (医学B 1年)	
	重本 航輝 (医学B 1年)	深堀 洋佑 (医学B 1年)	
		福原 茜 (医学B 1年)	

## 1. はじめに ～家庭医療べんきょう会について～

私達「家庭医療べんきょう会」は地域医療や総合診療，多職種連携に興味を持つ学生が自主的にこれらについて学ぶサークルです。メンバーは山口大学と山口県立大学の医学生・看護学生です（おもしろプロジェクトの構成員には山口大学の学生のみ記載）。本格的な活動開始から2年弱のまだ新しいサークルですが，月1回程度の定期的なイベントを企画・運営し，精力的に活動しています。昨年度までは，学生主体のワークショップや地域医療・総合診療の分野で第一線でご活躍されている先生方をお招きしての講演会など，学内でのイベントが中心でした。今年度はこれまでの活動に加えて，「積極的に地域と関わる」ということもメインテーマに掲げ，①エキスパートを招聘しての講演会・セミナーの開催，②へき地診療所実習，③宇部市民の方々と宇部市の医療についての意見交換会，を3つの柱として活動を行ってきました。

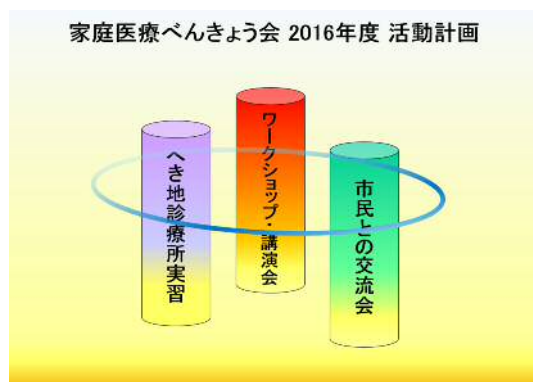


図 家庭医療べんきょう会 2016年度活動計画

## 2. エキスパートを招聘しての講演会・セミナー

山口大学医学部附属病院総合診療部・准教授の齋藤 裕之先生を講師にお招きし，6月28日に山口大学小串キャンパスにて「家庭医療総論」というタイトルで今年度1回目のセミナーを開催しました。家庭医療べんきょう会以外の山口大学の学生にも広く案内し，25名を超える参加がありました。その後，7月30日に山口大学小串キャンパスにて，日本プライマリ・ケア連合学会山口県支部と「総合診療サマーセミナー in 山口」を共催しました。本セミナーは，医療従事者を主な対象としたセミナーであり，私達医学生・看護学生もグループワークを通じて現役の医療従事者の方々と一緒に高齢者の診療について考える機会を得ることができ，学びの多い貴重な機会となりました。8月27，28日にはおもクロ！，Choco Conference との共催で角島大浜キャンプ場にて「Dr. ツノ一診療所 知識ゼロから始める！白熱レクチャー in 角島」を開催しました。このイベントは総合診療の分野で著名な6名の医師を講師としてお招きし，身体診察，救急医療，臨床推論等について学ぶセミナーであり，山口大学，大分大学，産業医科大学，愛媛大学の医学生36名の参加がありました。低学年～高学年まで幅広く対象とする会でしたが，内容はどのレクチャーも実践的なものであり，また講師の先生方は情熱的な方ばかりで，学生との距離が近い非常にフランクな雰囲気の中でセミナーが行われました。4つの大学の1年生～5年生までの多様な

医学生と交流することができ、大学の座学とは全く異なる新鮮なセミナーとなり、大いに刺激を受けました。

今後の企画として、2017年3月開催を目指して、PIPC (Psychiatry in Primary Care) 研究会事務局の宮崎 仁先生、尾中病院・山本 千恵子先生、総合診療部准教授・齋藤 裕之先生と「PIPCセミナー in 山口」の企画・準備を進めています。本セミナーは、総合診療医・内科医の立場からの精神科疾患診療に関する会であり、医学生・看護学生だけでなく、現役の医療従事者の方々、特に精神科専門医の少ないへき地医療に従事しておられる先生方にも広く案内を行う予定です。このセミナーを企画するきっかけは、上記の総合診療サマーセミナー in 山口で山本先生とお会いし、お話する機会を得たことでした。このように、活動を通じて新たな出会いが生まれ、また新たな活動を通じて新たな出会いが生まれるという、出会いの好循環を実感しています。



総合診療部・齋藤先生「家庭医療総論」(6月28日 於：山口大学小串キャンパス)

### 3. へき地診療所実習

2015年度から山口大学医学部医学科3年次のカリキュラムから地域医療実習がなくなり、医学科の学生が山口県内の地域医療の現場を体験する機会は大いに失われました。そこで、家庭医療べんきょう会のメンバーからの「離島医療を体験してみたい」という意見と併せて「へき地診療所実習」を企画することとしました。山口県立総合医療センターへき地医療支援部の原田 昌範先生にご支援頂き、2016年3月に萩市大島、平郡市、および萩市内の山間部の診療所でへき地医療の現場を体験し、現状を理解する「へき地診療所実習」を行いました。実習終了後、実習で得た学びを互いに共有し、また山口県の地域医療の現状やそれに対する学生の感想・意見を家庭医療べんきょう会以外の山口大学生に知ってもらう機会として、「へき地診療所実習2016春 報告会」を5月17日に山口大学小串キャンパスにて開催しました。その結果、当初の予想を上回る30名以上の山口大学の医学生・看護学生、山口県立大学の看護学生の参加がありました。現在、2017年2月の実施を目標に次回のへき地診療所実習の計画を立案しています。

また、山口大学、自治医科大学、山口県立大学、高知大学、岩国医療センター附属岩国看護学校の医学生・看護学生が集まり、合同で開催された「やまぐち地域医療セミナー2016 in 岩国」に家庭医療べんきょう会のメンバーの有志が参加しました(山口大学5名、山口県立大学3名)。家庭医療べんきょう会で企画する上記のへき地診療所実習では実現が難しい、地域の医療従事者、山口大学教員、行政職員という立場の異なる3者と医学生・看護学生が一同に会し、意見交換を行う機会もあり、地域医療の向上には医療からだけでなく、行政からのアプローチが必要であり、互いに連携する重要性を把握することができました。やまぐち地域セミナーで学んだことを共有し、このセミナーについて山口大学生によく知ってもらうことを目的として、今回のセミナー参加者の有志による「やまぐち地域医療セミナー2016 参加報告会」を9月30日に山口大学小串キャンパスにて開催予定です。



へき地診療所実習 2016 春報告会 (5月17日 於：山口大学小串キャンパス)

#### 4. 宇部市民の方々と宇部市の医療についての意見交換会

これまで地域住民と医療従事者の間の接点は、診療の他には市民公開講座という形式で、医療従事者が市民に現在の医療のトピックスや最近の知見を説明するというものが主でした。この形式では質疑応答の時間を除き、基本的には一方向であり、市民が医療従事者と十分に意見を交わすということは困難です。そこで、市民が医療従事者および行政職員と和気藹々とした雰囲気の中で医療や医療に対する市・県の取り組みについて自由に質問し、意見を交換することができる機会を設け、医学生・看護学生が両者間の橋渡し役を担うというコンセプトの下、ワールドカフェ形式の意見交換会「YUME カフェ (仮)」を企画し、1月～2月開催に向けて準備を進めています。

市民の方々と交えたワールドカフェの運営方法を学ぶため、6月5日に山口市で行われた山口市の小児救急について市民の方と考える会である「Dr.カフェ」に参加し、視察を行いました。実際に参加することで、参加された市民の方のニーズやニーズに応えるテーマ設定の重要性、また会場の規模や運営に必要な人員、会の運営の段取り等を具体的に把握することができ、「YUME カフェ」を開催する上で非常に有意義な視察となりました。

この視察も踏まえ、第1回目の今回は「認知症」をテーマとすることに決定し、指導教員の総合診療部教授の黒川 典枝先生、神経内科学講座准教授の川井 元晴先生にご相談させて頂きながら、実現に向けて準備を進めています。宇部市医師会より YUME カフェへの後援の承認を頂き、現在山口県医師会へ後援申請中です。今後、認知症に造詣が深い宇部市・山陽小野田市内の医療従事者や市の職員の方々に YUME カフェの企画説明および参加依頼を行い、ご参加頂ける医療従事者と行政職の方々が決定した後に市民の方々への案内を開始しようと考えています。見込み参加者数としては、市民 30 名・医療従事者 10 名・学生 20 名の計 60 名を予想しています。宇部市内で開催されている既存の会との差異、すなわち「双方向」、「ワールドカフェ形式」、「学生による運営」という点を最大限活かし、オリジナリティーのある、また価値のある会となるように全力を注ぎます。

上記の YUME カフェとは直接の関係はありませんが、「積極的に地域と関わる」活動の1つとして、10月1日～2日に秋吉台国際芸術村にて開催される、がん患者さんのチャリティイベントである「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 やまぐち美祢」に家庭医療べんきょう会の有志メンバーがボランティアスタッフとして参加することとなりました。患者さんの気持ちを理解・共感し、寄り添うことができる医療従事者となれるように、がん患者の方と直接対話できるこの貴重な機会を有意義なものとしたいと思います。



YUME カフェ (仮) のコンセプト

## 5. おわりに

2016年度前期は年度の初めに立てた活動計画、①エキスパートを招聘しての講演会・セミナーの開催、②へき地診療所実習、③宇部市民の方々との宇部市の医療についての意見交換会、という3つの柱に沿って活動を行いました。また、3つの柱のそれぞれから派生した活動にも積極的に取り組み、新たな活動と出会いの好循環を実感しています。残りの半期も前期に引き続き3つの柱を中心に精力的に活動し、最終的に山口大学および地域に寄与する成果として結実させるべくプロジェクトを進めて参ります。